平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	8	ー	7

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	保育所用備品購入事業					
評価者	担当課名		保育所	担当係名		児童保育係
	管理職	職名	所長	作成者	職名	所長
		氏名	豊田　通敏		氏名	豊田　通敏
事業の概要	保育所運営に必要な備品の更新及び購入			全体計画（平成 23 年度～ 23 年度）		
				事業費	国・道支出金	0 千円
					地方債	0 千円
					その他	0 千円
					一般財源	340 千円
					事業費計	340 千円
実施方法	■ 直営		□ 民間委託		□ その他（　）	
第５期総合計画（前期）			□ 登載事業	■ 非登載事業	優先度	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～			
	基本施策	8	子育ち・子育ての充実			
	単位施策	2	「子育て」支援の強化			
	事務事業の種類	■	自治事務	□	法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	79 千円	千円
	合計	千円	千円	千円	79 千円	7,600 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	保育所入所児	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	施設備品の老朽化及び安全対策	老朽化備品の更新又は必要備品の設置		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	破損、ぐらつきなどがなく安全に使用できる備品の設置及び安全対策の向上	① テーブル、イスの更新数 ・テーブル4個 ・イス18脚	目標年度	平成23年度
			目標値	22 個
			実績値	0 個
			達成度	0.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	より安心・安全な保育所生活の実現	② 災害時における避難設備の設置数	目標年度	平成23年度
			目標値	0 式
			実績値	1 式
			達成度	#DIV/0! %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
防災行政無線戸別受信機の購入	雄武町で設置している防災行政無線（同報系）から発せられる音声が等が保育所では聞き取れないため、緊急時の避難や情報の収集に遅れが生じるため、急きょ購入した。
テーブル、イスの購入延期	専門業者による修繕により使い勝手及び安全性が確保されたため、当分の間、購入を見合わせることとした。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	施設の備品は、その目的に応じた備品類の整備が必要であり、常に正常な状態にしておく必要がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

課題あり 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 □ほぼ達成 ■下回る	当初予定していた備品（テーブル、イス）については、修繕により安全性が確保されたため購入せず、代わりに、緊急性の高い防災無線戸別受信機を購入した。これにより、緊急時の安全性が高まった。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	計画で購入予定のテーブル及びイスについては、修繕で当分の間使用することが差支えないと判断したため購入しなかったが、最近多く発生している大災害に対する備えから、防災無線受信機を設置することは施設運営の観点からも効率的である。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	テーブル、イスを修繕することにより、児童全員が公平に使用できる。また、防災無線がきちんと傍受できることにより、有事の際において、児童全員が速やかに避難等ができるようになる。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B		
計画どおりに進められなかったが、災害に対する安全性を高めたことは、昨今の災害状況から鑑みて、一定の評価はできる。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
施設の備品については、施設運営や安全の観点から適宜更新していく必要がある。今後も必要に応じて、備品の更新又は新規購入を進めていく。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）